



文部科学大臣杯 第45回全日本中学選手権

7月21～23日/キョーイチボウル宇治

男子 宮城快仁、女子 砂川舞佳 選手

沖縄県勢が男女アベック優勝



▲ともに沖縄県の宮城選手(左)と砂川選手が優勝

文部科学大臣杯・第45回全日本中学ボウリング選手権大会は、7月21日から3日間、京都・キョーイチボウル宇治を会場に、男子142名、女子72名が参加して熱戦が展開されたが、男子は宮城快仁選手(那覇市立城北中3年)、女子は砂川舞佳選手(那覇市立鏡原中3年)の沖縄県勢が、男女アベック優勝を飾った。(主催:(公財)全日本ボウリング協会)

男子・手に汗握る接戦

1回戦で710と好スタートを決めた宮城快仁選手が予選(9G)を2013の1位で決勝に進み、21ピン差で久米一寧選手(京都市立修学院中)が続いていた。近年ジュニアの男子は、両手投げが勢力急拡大しているが、この大会でもその二人を含め、男子は決勝進出20名中実に11名を両手投げが占めていた。

決勝(3G)ではペースが上がらず順位を落とした久米選手に代わって宮城選手を追いかけたのは、宮城選手から96ピン差の4位で決勝に進んだ横内結樹選手(大阪・箕面市立第四中)。1G目223のあと、



▲「最終G、30ピンあったリードがなくなってメッチャ焦った」と宮城選手



▲「決勝は投げやすいラインを早めに見つけられた」と猛追で3位に食い込んだ奥田選手

めた宮城選手が22ピン差退ける2665で初の選手権者に輝いた。「スランプがととも長くて、最終学年でやっとこの大会に出られた」と、初出場での優勝だった。

また予選15位の奥田倫平選手(山口・野田学園中)が、決勝で738と伸ばして、トータル2583で3位に食い込んだ。

女子・砂川選手が独走

初日の2回戦を終わって2位につけていた砂川舞佳選手が、「朝イチのレーンは地元でも練習してきた」と、2日目の3回戦で720を打って、トータル



▲「決勝は点差があったので、いつもどおり投げれば大丈夫」と、余裕の優勝の佐川選手

選択を間違っ3回戦を落としてしまったのが悔やまれる」と、523と伸ばせず、砂川選手に177ピン差と水をあげられた。

予選で独走態勢を築いた砂川選手は、決勝もすきを見せず623を打って、トータル2543で快勝した。コロナ禍で今年1月開催だった前回大会は3位だったが、「最終学年だし、優勝を狙って練習をたくさんしてきたので、それが叶ってうれしい」と喜びを口にした。

坂田選手も決勝を590とまとめて2位を確保。3位には、6位

1920の1位で決勝に進出。逆に2回戦を終わってトップに立っていた坂田望実選手(奈良・香芝市立香芝中)は、「ボールの

で決勝に進んだ内野ひかり選手(千葉・江戸川区立葛西中)が、最終Gに232を打って食い込んだ。



▲「2回戦まではいい内容だったので悔しい。その分国体で頑張りたい」と坂田選手



▲「自分の投球に集中することを心がけたが、最終Gはうまくはまってくれた」と3位の内野選手



▲「中学最後だったのもうちょっと頑張りたい」と惜しくも準優勝の横内選手